

私達が学んでいる知識・技術を基礎として地域にどうすれば農業の魅力が伝えられるか。

クラブ員代表者会議 九州ブロック連盟 大分県立大分東高等学校
園芸デザイン科 3年 平松 舞亜
園芸ビジネス科 3年 羽田野 桃香

1 はじめに

(1) 九州学校農業クラブ連盟の紹介

九州学校農業クラブ連盟は昭和33年10月に熊本県と沖縄県を除く九州6県で「九州ブロック予選会」をしたのが始まりです。その後、昭和34年に熊本県、昭和47年に沖縄県が加入し、現在に至ります。

今年度の各県連事務局校は大分県立三重総合高等学校、宮崎県立都城農業高等学校、沖縄県立北部農林高等学校、福岡県立福岡農業高等学校、長崎県立諫早農業高等学校、佐賀県立高志館高等学校、熊本県立菊池農業高等学校、鹿児島県立市来農芸高等学校です。

クラブ会員数は、大分県1,026名、宮崎県1,955名、沖縄県2,396名、福岡県2,451名、長崎県1,912名、佐賀県1,313名、熊本県3,002名、鹿児島県1,532名、総勢15,587名と全国でも比較的大きいブロックです。

「九州はひとつ」の合い言葉をもとに、お互いに切磋琢磨しながら農業クラブ活動に努めています。

(2) 本年度九州学校農業クラブ連盟事務局校「大分県立大分東高等学校」の紹介

本校は、大分市の東部に位置しており、2020年には創立100周年を迎えます。園芸ビジネス科、園芸デザイン科、普通科の3学科があり、本校はノーチャイム制を実施しており、授業の開始、終了は、自分で時計を見て行動しなければなりません。そして、女子生徒のスカートは膝下10cmが基本となっていて、県内の他校の生徒からも驚かれるくらいです。

元々、普通科だった高校に農業科が新設され5年目を迎えました。圃場規模は小さいですが、県下単位クラブでは最もクラブ員数が多くなっています。園芸ビジネス科では野菜などを育て、収穫したものを加工し、園芸デザイン科では花を栽培しており、フラワーアレンジなど、農産物生産から加工・販売まで6次産業化を目標として日々の実習に取り組んでいます。県内のイチゴ品種「ゆふおとめ」のウイルスフリー苗の育成に取り組み、バイテク情報普及協会から表彰され、3年後には農家に苗を提供できるように今後も継続していきます。

部活動も盛んで、男子ソフトボール部、女子ソフトボールがインターハイに出場するなどの実績もあります。

2 九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会の報告

九州学校農業クラブ連盟では、7月24日（月）～26日（水）に2泊3日の日程で「第51回九州学校農業クラブ連盟リーダー研修会」を実施しました。

初日は、大銀ドームの会議室で開講式を行いました。その後、高崎山の飼育員の方に『サルの生態』について講演をしていただき、2日目の視察研修に繋がる講演会となりました。その夜、県連紹介がありました。各県連とても分かりやすい説明で九州全体の農業科の実態を知ることができました。



サルの生態講演

2日目の視察研修では、はじめに分科会ごとに話し合いをし、3日目に行う各班の発表の準備をしました。初の班活動だったのでみんなごちなさもありましたが、時間が経つにつれ会話も弾み、いい分科会になりました。そして、大銀ドームでフィールドや選手の控室などを見て回りました。一般には入ることのできない場所を見学できたこともあり、大分県の人はもちろん各県連の人達も興奮した様子でした。とても貴重な体験になりました。その後、高崎山へ向かい多くのサルを見ながら飼育員さんのサルの実況を聞いていました。サルが自分の股を通り抜けると縁起の良いことがある、と言われており、サルが股下を通るたびに歓声があがるなど、とても楽しい研修となりました。



大銀ドーム視察

最終日の3日目は、全体会を行い、第1分科会・第2分科会ともにまとまった案を発表しました。また、今年も県連会長さんから今回のリーダー研修会の感想や後輩に向けてのメッセージなどを熱く語ってもらいました。農業に関する問題について皆で話し合い、それに対する解決策を考える中で個人個人が様々な交流ができたと思います。この3日間、充実した研修会となりました。



分科会の様子

3 分科会協議・全体会の報告

テーマ：「私達が学んでいる知識・技術を基礎として

地域にどうすれば農業の魅力を伝えられるか。」

(1) 実態

- ア 農産物販売会を行っている
- イ 企業とのコラボに取り組んでいる
- ウ 3K（きつい、きたない、かっこわるい）のイメージがある
- エ 県全体での活動を行っていない



(2) 問題点・実態から見えたもの

- ア 固定されているお客様しか来られない
- イ 新たなアイデアを出し続けていないと継続は難しい
- ウ 就農者の減少
- エ 組織としての活動をしていない
農業クラブの知名度が低い



(3) 問題点解決の具体的な取り組み

- ア メディアの活用
 - ①子供達向けの体験実習を行い、その様子をメディアで放送してもらう。
 - ②新聞やテレビ放送などで多くの人に知ってもらう
 - ③県内の農業高校のホームページを一つにまとめる「〇〇県 農業高校」でクリックするといろいろな高校の一覧が見られる
 - ④ラジオなどを使って農家さんの話を直接聞くコーナーを作ってもらう
 - ⑤学校でCMをつくって農業高校を宣伝する
- イ アイデアをもとめる
 - ①定期的に交流会をして作物をいっしょに育てていく
 - ②授業の一貫として実際農家へ行き話しを聞く
 - ③地域の公民館などで農家の人に講演会をしてもらう
 - ④他校との意見交換をすることで様々な刺激を受けることができる
- ウ 農業を知ってもらうために
 - ①保育園や小学生には土・日やイベントなどで野菜の収穫
中学生には、高校の体験入学に来てもらえるように学校から呼びかける
 - ②高校生カフェで地元のフルーツなどを活用
 - ③twitter、instagram、FacebookなどのSNSを活用することで若い人たちに知ってもらうことができる。
 - ④学校で作ったパンなどを小学校の給食や幼稚園に配る

エ 農業を活性化

- ①遊園地などの使わなくなったプールを使って、花を植えるなど再利用する。
- ②私たちが実際に感じている農業の魅力を多くの人に伝える取り組みをする。
- ③小中学校にも産業フェアなどを夏休み中に開催し、自由研究に役立てる



4 協議内容のまとめと今後の課題

農業に直接触れ合う機会を設けているが、知名度が低いと特定の人しか参加して頂けていないというこの現状を改善するために各学校の取り組みや、イベントを新聞にまとめ公共施設等を利用し宣伝する。子供向けの体験実習を設け農業に触れ合えるキッカケを作り、その様子をメディアで流してもらう。

(1) 公共施設を利用して、宣伝する

(2) キッカケをつくる

農業の魅力を伝えるためにメディアを活用する
販売などを定期的に行い活動する

5 終わりに

地域の方に農業の魅力を発信するためには体験型の活動を通して、命の育みや自然とともに生きることを実感してもらうことが大切だと考えた。

今後、各県連単位クラブが結束し発表資料のような活動に取り組むことで農業の魅力を発信していきたい！！